慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	ラテン語語彙の歴史的研究
Sub Title	Historical studies of Latin words
Author	小池, 和子(Koike, Wako)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2019
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2018.)
JaLC DOI	
Abstract	古代ローマ人の言語であるラテン語は，いわゆる「死語」である．しかし実際に使われていた時代にあっては，それは確かに生きた言葉だったのであり，ラテン語の語彙は，刻々と変わっていく世界や，新しく生まれた概念を反映するべく，様々に変化していった．本研究では，そのような歴史の一端を明らかにすることを目指した．具体的には，以下の（１）・（２）の二つの形で，ある特定の単語がたどった歴史を探ることを試みた（なお，申請したのとは違う形での採用となったこともあり，当初の計画から規模を縮小して研究を遂行したことをあらかじめお断りしておきたい）．（１）タキトゥス『弁論家達についての対話』（Dialogus de oratoribus）における語彙の調査・研究，とりわけある弁論家の文体の形容に用いられた名詞tinnitusについて，それがどのようなニュアンスを持ちうるのか検討した．結果は言語文化研究所紀要（第50号）において発表した．（２）Bayerische Akademie der Wissenschaft, Thesaurus Linguae Latinaeにおいて、同名のラテン語辞典Thesaurus Linguae Latinaeの編纂作業に参加し（2018年8月〜9月），「清める、きれいにする」などの意味を持つ動詞repurgoの調査・項目執筆を行った（査読済み，刊行は後日）．ラテン語辞典としてのThesaurus Linguae Latinaeは，最も大型で専門的なラテン語辞典として，かつ最も徹底的に収集された用例に基づいて編纂されることで知られている．repurgoにおいても，紀元前一世紀から紀元後六世紀という幅の広い時代にわたる用例を研究することができた．編纂作業には様々な国の多様な分野の研究者が協力しており，国際的なプロジェクトでもある．筆者は既に「（返却を）求める，要求する」といった意味を持つ動詞reposcoの調査にも着手しており，編纂活動への参加については，今後も継続して行う予定である． I made this research in the following two ways: (1) I researched the vocabulary in Tacitus, Dialogus de oratoribus, especially the word tinnitus, which Tacitus used in describing the style of an orator. (2) I took part in the project of Thesaurus Linguae Latinae (Bayern Academy of Sciences and Humanities): more specifically, I researched a latin verb repurgo and wrote the article of it.
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2018000005-20180136

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2019 年 4 月 3 日

2018 年度　学事振興資金（個人研究）研究成果実績報告書

研究代表者	所属	言語文化研究所	職名	准教授	補助額	300 （A） 千円
	氏名	小池 和子	氏名（英語）	Wako Koike		

研究課題（日本語）

ラテン語語彙の歴史的研究

研究課題（英訳）

Historical studies of Latin words

１．研究成果実績の概要

古代ローマ人の言語であるラテン語は，いわゆる「死語」である．しかし実際に使われていた時代にあっては，それは確かに生きた言葉だったのであり，ラテン語の語彙は，刻々と変わっていく世界や，新しく生まれた概念を反映するべく，様々に変化していった．本研究では，そのような歴史の一端を明らかにすることを目指した．具体的には，以下の（1）・（2）の二つの形で，ある特定の単語がたどった歴史を探ることを試みた（なお，申請したのとは違う形での採用となったこともあり，当初の計画から規模を縮小して研究を遂行したことをあらかじめお断りしておきたい）．（1）タキトゥス『弁論家達についての対話』（Dialogus de oratoribus）における語彙の調査・研究，とりわけある弁論家の文体の形容に用いられた名詞 tinnitus について，それがどのようなニュアンスを持ちうるのか検討した．結果は言語文化研究所紀要（第 50 号）において発表した．（2）Bayerische Akademie der Wissenschaft, Thesaurus Linguae Latinae において、同名のラテン語辞典 Thesaurus Linguae Latinae の編纂作業に参加し（2018 年 8 月～9 月），「清める、きれいにする」などの意味を持つ動詞 repurgo の調査・項目執筆を行った（査読済み，刊行は後日）．ラテン語辞典としての Thesaurus Linguae Latinae は，最も大型で専門的なラテン語辞典として，かつ最も徹底的に収集された用例に基づいて編纂されることで知られている．repurgo においても，紀元前一世紀から紀元後六世紀という幅の広い時代にわたる用例を研究することができた．編纂作業には様々な国の多様な分野の研究者が協力しており，国際的なプロジェクトでもある．筆者は既に「（返却を）求める，要求する」といった意味を持つ動詞 reposco の調査にも着手しており，編纂活動への参加については，今後も継続して行う予定である．

２．研究成果実績の概要（英訳）

I made this research in the following two ways: (1) I researched the vocabulary in Tacitus, Dialogus de oratoribus, especially the word tinnitus, which Tacitus used in describing the style of an orator. (2) I took part in the project of Thesaurus Linguae Latinae (Bayern Academy of Sciences and Humanities): more specifically, I researched a latin verb repurgo and wrote the article of it.

３．本研究課題に関する発表

発表者氏名（著者・講演者）	発表課題名（著書名・演題）	発表学術誌名（著書発行所・講演学会）	学術誌発行年月（著書発行年月・講演年月）
小池和子	Thesaurus Linguae Latinae とラテン語辞典編纂	慶應義塾大学言語文化研究所総会記念講演	2019 年 3 月
小池和子	Tacitus, Dialogus de oratoribus 試訳(IV)	慶應義塾大学言語文化研究所紀要（第 50 号）	2019 年 3 月